

寝屋川兩岸のつつじ
成田支部
南 みつぐ



組合員の
作品



絵手紙
守口北支部
柳原 成奉

俳句

花見後を伺ふ京の鴉かな

門真東支部 扇女

大桶の若葉くぐりて参拝す

門真中央支部 兵頭 丘子

奥の院同行二人花ふぶき

門真南支部 こよみ



守口市大久保町 妙楽寺のひらどつつじ
(府指定天然記念物)
成田支部 南 みつぐ

詠歌

白い大文字だいもんじ

成田支部 迫田 智代



どじょうサボテンの花
ひまわり支部
石元 俊子

如意ヶ嶽に
あの戦争の二年間だけ
白いシャツを着た児童の人文字
灯火管制の中での送り火として描かれた
あれから半世紀たち
平安建都二二〇〇年の京の都
白い大文字を実現させるとある
あの白いシャツを着た人達
全員集まれ
あれからの時の流れに
どれだけの人が命長らえた
けっして後もどりしない
かたい決意を白いTシャツの胸に
千の魂魄を
ぬい込んで着る

一九九五年刊「私の旅」より

※皆様の投稿をお待ちしています。(写真・短歌・絵手紙など)
編集委員会 ☎072-882-5025 (組織部まで)

戦後 70年を 迎えて

⑤

戦後70年 平和への思い新たに

1945年3月の大阪、空を覆い尽くすように焼夷弾が降り注ぎました。アメリカ軍のB29の大編隊が、大阪をおそったのです。私の生まれた街大阪市南区―現中央区島之内をおそいました。

当時3歳だった私は、防空頭巾を頭からかぶって、母の背中にながみついて、焼夷弾の雨の中を逃げまどいました。家の近くの防空壕にたどり着くまで、生きた心地はしませんでした。

もし、あの時、焼夷弾に当たっていたら、母も私も、この世にはいなかったと思うと、70年の歳月が過ぎた今でも、背筋が凍ります。母は17年前に他界しましたが、死の間際まで、よう生きてこれたもんなと話していました。母の背中で「僕のうち焼けてしもた」と私がつぶやいたことを母はよく話してくれました。戦争なんかしたらあかんが母の口癖でした。

戦後70年、大阪の人達は、汗水流して、現在の大阪を築き上げたからこそ大阪の繁栄があるのです。

大阪で生まれ育った私は、大阪の街、灰にしたらあかん、二度と戦争はしたらあかん。その思いで、大阪空襲の被害を国に認めさせようという訴訟の原告団に加わりました。安倍政権のもとで、平和を壊し、憲法九条を壊そうという動きをどうしても止めなければならぬという、決意が心に突き刺さっています。

理事 樋ノ上 博敏